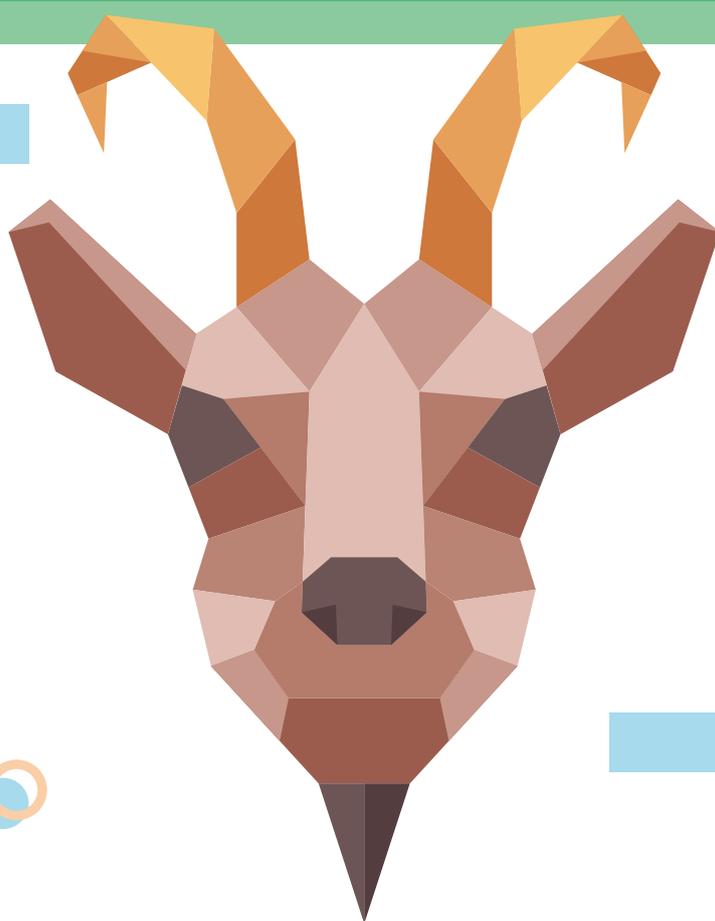


gusuku Customine

カスタマイズの歩き方

Excel / PDF 出力編



なまえ

はじめに（この冊子の目的）

使いこなすととても便利な gusuku Customine（以降カスタミンと表記）。しかし、実現できることが多すぎるがゆえに使っていただいているお客様より「難しい」というお声をいただくこともあります。そこで、実際に役立つカスタマイズを作成しながらカスタミンの使い方にも慣れていただくための教材を用意しました。

この冊子では、kintone が苦手としている Excel や PDF への出力をカバーする機能であるカスタミンの Excel/PDF 出力機能を取り上げます。「Excel/PDF 出力」の基本的な使用方法を習得していただくことで、実務に汎用的に活用していただければと思います。

この冊子で理解できること

1. Excel/PDF 出力用テンプレートの作成方法
2. Excel/PDF の出力方法
3. Excel/PDF 出力ファイルの活用方法

目次

1. はじめに理解していただきたいこと -----	4
1-1. 本書の用語について -----	4
1-2. Excel/PDF 出力機能について -----	6
1-3. カスタミンの基本的な構造 -----	9
1-4. カスタミンで作成したカスタマイズが動く仕組み -----	9
1-5. 実行順序 -----	13
2. 実例に学ぶカスタマイズ作成のポイント -----	15
3. うまく動かないときは？ -----	36

1. はじめに理解していただきたいこと

1-1. 本書で使用する用語

本書ではカスタマイズの画面や用語を以下のように記載します。



アクション

カスタマイズの設定における 1 単位です。「やること」と「条件」を組み合わせた 1 セットが 1 つのアクションとなります。

やること

カスタマイズ設定画面の左側で選択する「やること」は、本書では [やること：フィールドを無効化する] のように記載します。

条件

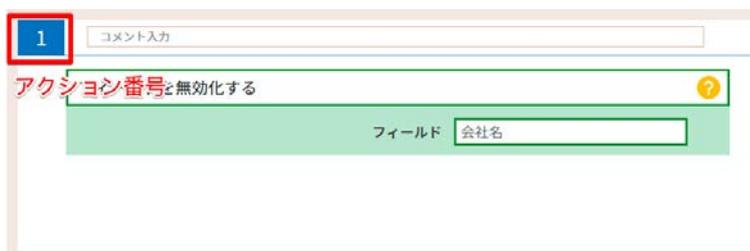
カスタマイズ設定画面の右側で選択する「条件」は、本書では < 条件：一覧画面を表示した時 > のように記載します。

追加条件

「条件」の下部で「条件を追加」を選択して設定する「追加条件」は、本書では < 追加条件：フィールド値が特定の値ならば > のように記載します。

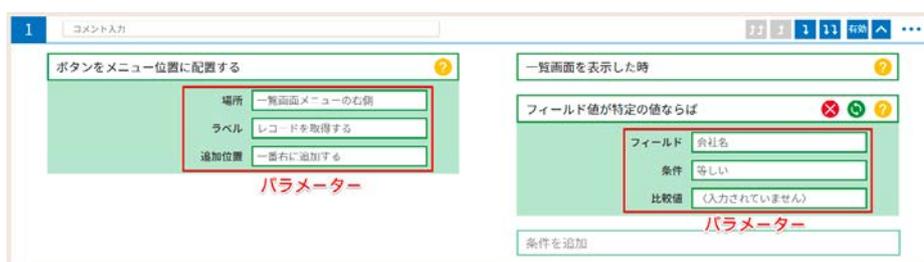
アクション番号

カスタマイズ設定画面で各アクション（設定）の左上の数字です。本書内で【アクション：1】と記載した場合には、アクション番号 1 番の設定を指します。



パラメーター

設定する「やること」や「条件」に応じて設定する項目のことをパラメーターと記載します。



テンプレートファイル

Excel/PDF 出力機能を使用する際に、kintone のフィールドと出力位置を紐付けるための Excel ファイルのことです。

テンプレートファイルの例

A	B	C	D	E	F	
1	御見積書					
2						
3	\$(宛名)	様				
4				御見積番号: \$(見積番号)		
5				御見積日: \$(見積日)		
6						
7				アールスリーインスティテュート		
8						
9	見積明細:					
10	型番	商品名	単価	数量	小計	
11	\$FOREACH(見積明細)					
12	\$(型番)	\$(商品名)	\$NUM(単価)	\$NUM(数量)	\$NUM(小計)	
13	\$END					
14						
15				御見積額	0	
16						
17	備考:					
18	\$(備考)					

kintone のレコード

御見積書

宛名
林田商会 様

見積番号
20210923-01

見積日
2021-09-23

型番	商品名	単価	数量	小計
C-001	gusuku Customine 月額プラン	18000	1	18,000
C-005	gusuku Customine 追加アプリ スポット	6000	3	18,000
D-001	gusuku Deployit スタンダード	12000	1	12,000

合計金額 48,000

備考

- 納期予定: 別途調整
- 見積有効期限: 本書日付後60日以内
- ・ gusukuおよびkintoneの利用規約に同意いただくものとします。
- ・ 契約期間満了月の20日までに解約のお申し出がない場合は更新とさせていただきます。

御見積書				
林田商会 様		御見積番号: 20210923-01 御見積日: 2021-09-23 アールスリーインスティテュート		
見積明細:				
型番	商品名	単価	数量	小計
C-001	gusuku Customine 月額プラン	18,000	1	18,000
C-005	gusuku Customine 追加アプリスロット	6,000	3	18,000
D-001	gusuku Deploy スタンダード	12,000	1	12,000
御見積額				48,000
備考:				
■納期予定:別途調整 ■見積有効期限:本書日付後60日以内 ・gusukuおよびkintoneの利用規約に同意いただくものとします。 ・契約期間満了月の20日までに解約のお申し出がない場合は更新とさせていただきます。				

テンプレート管理アプリ

上記の「テンプレートファイル」を格納し、管理するための kintone アプリのことを指します。

アプリテンプレート

kintone の基本機能として提供されている、アプリの作成に使用するひな型のことです。アプリテンプレートを使用することは Excel/PDF 出力機能を使用する際に必須ではありませんが、カスタマイズを気軽にお試しいただくために、本書ではアプリテンプレートを使用しています。

※「アプリテンプレート」と「テンプレート管理アプリ」は異なりますのでご注意ください。

アプリテンプレートについては、詳しくは kintone のヘルプをご参照ください。

https://jp.cybozu.help/k/ja/admin/app_admin/template/whats_template.html

1-2.Excel/PDF 出力機能について

カスタマイズの Excel/PDF 出力機能では、Excel ファイル形式のテンプレートファイルをもとに、kintone 内に登録されたレコードデータを当てはめて Excel または PDF、CSV ファイルを出力します。そのため、Excel/PDF 出力機能を利用するためにはこのテンプレートファイルを事前に用意しておくなどの、決まった手順があります。次項より手順についてご説明いたします。

CSV 出力について

カスタマイズの機能としては「Excel/PDF 出力」と呼んでいますが、お客様からのご要望を受けて現在は CSV ファイルの出力も可能となっております。

Excel/PDF/CSV に出力する機能のことを本書では以後「Excel/PDF 出力」と呼びますが、CSV ファイルに出力する際もほぼ同様の設定にてお使いいただけるとお考えください。

1-2-1. カスタマイズを作成する前におこなうこと

テンプレートファイルの用意

1. 「[Excel/PDF 出力テンプレート リファレンスマニュアル](#)」に従って作成した Excel ファイル形式のテンプレートファイルを用意します。

※テンプレートファイルは必ず Microsoft Excel を利用し、Excel ブック (拡張子 xlsx) 形式で作成する必要があります。

テンプレートファイルの記述は、「[Excel/PDF 出力テンプレート リファレンスマニュアル](#)」に記載しております gusuku コマンドとフィールドコードを使用します。使用方法については後述の「[実際に学ぶカスタマイズ作成のポイント](#)」で詳しく説明していきます。

「Excel/PDF 出力テンプレートリファレンスマニュアル」は以下をご参照ください。

<https://docs-customine.gusuku.io/ja/excelpdf/template-reference/>

2. テンプレート管理アプリを作成し、テンプレートファイルを保存

出力対象のアプリとは別に作成したテンプレートファイルを格納するアプリ (テンプレート管理アプリ) を作成します。

このテンプレート管理アプリは最低でも2つのフィールドが必要です。内容は、「テンプレートを識別するための値」を入れるためのフィールド (例: テンプレート名称) とテンプレートファイルを格納するための添付ファイルフィールドになります。

「テンプレートを識別するための値」というのは言葉だけだとイメージしづらいかもしれませんが、具体的には以下のように出力する帳票名などを入れておくものであるとお考え顶ければわかりやすいと思います。



また、テンプレート管理アプリには複数のテンプレートファイルを登録することが可能です。以下の例ですと見積書、商品リスト、顧客カルテのように異なるアプリそれぞれで用いるテンプレートファイルを登録しています。

帳票名	テンプレートファイル	
見積書	Template_見積書_locked.xlsx	 
商品リスト	Template_商品リスト.xlsx	 
顧客リスト	Template_顧客リスト.xlsx	 
顧客カルテ	Template_顧客カルテ.xlsx	 
顧客カルテ一覧	Template_顧客カルテ一覧.xlsx	 
見積書複数	Template_見積書_複数ページ.xlsx	 

gusuku API キー取得

Excel/PDF 出力の機能は gusuku サーバー上で処理が実行されるため、この処理を呼び出すために gusuku API キーを使用します。

この gusuku API キーは Excel/PDF 出力のカスタマイズ作成する際に使用します。そのため、予め gusuku 共通管理画面の API キー作成からキー名称を入力し、「API キーを新規に作成」しておきます。
※この API キーは kintone アプリの API トークンとは異なるものですのでご注意ください。



この API キーを事前に取得し、カスタマイズを作成していきます。

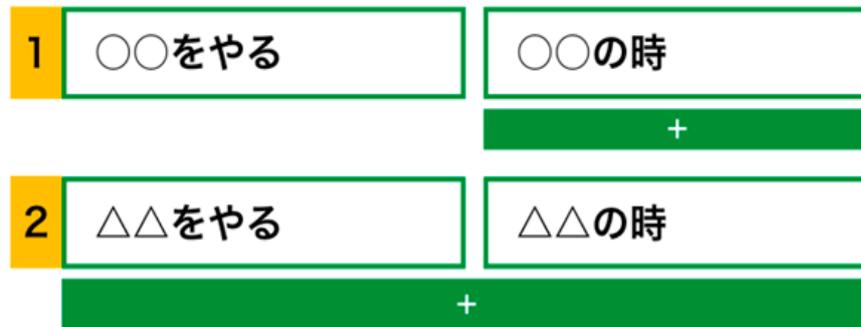
gusuku API キーが必要なカスタマイズについて

Excel/PDF 出力のデータ生成処理に関しては gusuku サーバー上で処理が動作します。gusuku サーバーはインターネット上に存在しているため、第三者からの不正なアクセスを防ぐため、アクセスを許可されたケースのみ実行できるようにする必要があります。このアクセス許可のための仕組みが gusuku API キーです。

本書では該当のカスタマイズは紹介しませんが、同様に gusuku API キーが必要なケースとして、Job Runner (定期実行 / Webhook) で作成したカスタマイズを kintone アプリのカスタマイズから実行するケースがあります。

1-3. カスタマインの基本的な構造

カスタマインの基本的な構造は「～の時に～ならば～する」を [やること] と <条件> を組み合わせて



という形で設定します。

この<条件>のドキュメント (<https://docs-customine.gusuku.io/ja/conditions/>) には「(追加条件)」と記載されている一覧があります。これは「～ならば」に該当するもので、<条件を追加>の箇所で指定します。

<条件>と<条件を追加>は指定する場所が違うのでご注意ください。

1-4. カスタマインで作成したカスタマイズが動く仕組み

カスタマインで作成したカスタマイズは、ユーザーの画面操作に基づいて動く仕組みとなっています。

1-4-1. 画面ごとの特性

kintone にはいくつかの種類の画面があり、その画面ごとにできることが異なります。この画面ごとの特性を理解することで、よりスムーズにカスタマイズを作成できるようになります。

一覧画面は一画面で同時に複数のレコードを閲覧できる、表示に特化した画面です。そのため、カスタマイズにおいてもテーブルデータを表示できる一覧画面の作成など、画面表示に関するカスタマイズに適しています。鉛筆ボタンを押すことで編集もできますが、編集画面・追加画面と比較すると多くの制約があります。編集する際には1レコード単位の編集しかできず、編集後は <条件：一覧画面を表示した時> に該当しないのでカスタマイズが動作しません。また、一覧の編集画面以外の方法で値を変更した場合はリロードしない限り表示は変わりません。

追加・編集画面はフィールド値を変更することが出来ませんが、保存ボタンを押すまでは確定していないのでキャンセルボタンを押すと変更は破棄されます。

詳細画面は kintone の仕様ではフィールド値の更新は出来ないのですが、Customine が裏側でレコード更新処理をする事でフィールド値を更新しています。この場合は一覧画面での更新時と同じく値は変わっていますが表示は変わらないのでリロードが必要になります。

1-4-2. 同じやることでも画面によって動作が違う

例として、[やること：[フィールドに値をセットする](#)]というやること1つをとっても、以下のように画面によって違いがあります。

追加画面の場合

フィールドに値がセットされて、表示も変わる

編集画面の場合

フィールドに値がセットされて、表示も変わる

詳細画面の場合

フィールドに値はセットされているが、表示は変わらない
表示を更新するためにはリロードする必要がある

一覧画面の場合

画面に表示されている全レコードのフィールドに値がセットされて、表示は変わらない
表示を更新するためにはリロードする必要がある

一覧画面の鉛筆を押した編集画面

編集状態になっているレコードのフィールドに値がセットされて、表示も変わる

フィールド値がリアルタイムに変わるのは、kintone での操作と同じく追加画面・編集画面のみということにご注意ください。

コラム：フィールド名とフィールドコード

kintone の仕組みとして、フィールド値を参照する場合は「フィールドコード」を指定します。kintone のフィールドには「フィールド名」と「フィールドコード」があるのでご注意ください。

簡単な見分け方としては、フィールドの個別設定画面で上にあるのが「フィールド名」で下にあるのが「フィールドコード」です。「フィールドコード」を明示的に指定しないと「文字列_1行_1」のように自動でフィールドコードが設定されるため、フィールドコードがどのフィールドを指すのか判別しづらくなります。そのため、フィールド名と同じ名称をつけたり、「フィールド名_アプリ名」のようにフィールドコードからフィールド名を類推しやすい名前にしておくことをおすすめします。

□ 文字列 (1行) の設定

? ヘルプ

フィールド名 *

文字列 (1行)

フィールド名を表示しない

自動計算する

必須項目にする

値の重複を禁止する

文字数 (整数で指定)

最小 最大

初期値

フィールドコード *

文字列_1行_1

キャンセル 保存

1-4-3. 自分が操作しているアプリでカスタマイズは動く

カスタマイズを作る際には「どのアプリで操作をしたときにカスタマイズを動かしたいか」を意識して作成する必要があります。

先程の「フィールドに値をセット」だと、表示しているアプリのフィールドに対してセットされますので、別アプリのフィールドにセットしたい場合は「やること」が変わります。（「レコードを更新する（キーの値をフィールドで指定）」など）

コラム：これから「保存」するレコードのみが対象

カスタマイズで作成したカスタマイズは、今後操作するときに適用されるものであるため、過去に登録したレコードには適用されません。

例えばあるアプリを作成ししばらく運用した後に、レコード保存後にルックアップを自動更新するカスタマイズを作成したとしても、レコードを1つずつ保存していかないとルックアップは更新されません。ですので、カスタマイズ作成前に作成済みのレコードに対して更新しようとする、大変な手間がかかり実用的ではありません。このような場合には別の仕組みで更新する必要があります。

ルックアップの場合は、ルックアップフィールドの値を更新すれば取得できるので、全レコードを取得してルックアップフィールドだけを書き出せば可能です。また、CSV読み込みで一括更新する方法でも可能です。

同じような話で、検索用文字列作成があります。これもレコード保存時に文字列を作成しますが、過去のレコードは再保存が必要です。そして、検索文字列の場合は CSV 読み込みでは作成できないので、何らかのカスタマイズが必要になります。

本冊子では詳細な説明を記載しませんが、既に存在しているデータに対して検索用文字列の生成を行いたい場合には、こちらのページをご参照ください。

大量のレコードを安全に処理する方法：検索文字列を作成する事例

（紙の場合：サポートサイトで「検索文字列を作成する事例」で検索してください）

<https://support.gusuku.io/ja-JP/support/solutions/articles/36000268083>

また、kintone にはユーザーの画面操作を通知する「イベント」という仕組みがあります。カスタマイズで作成したカスタマイズは基本的に、この「イベント」に基づいて動きます。

1-4-4. イベント

イベントとは、「ユーザーの画面操作したタイミングでプログラムを動かすための kintone の仕組み」

であり、一例として以下のようなイベントが定義されています。

1. レコード追加画面を開いた時
2. プロセス管理のアクションを実行した時
3. フィールドの値が変わった時

kintone の「イベント」についてはサイボウズのヘルプをご確認ください。

<https://developer.cybozu.io/hc/ja/articles/360000361686>

カスタマイズにおける「条件」は主にこの「イベント」を日本語に置き換えたものです。また、より使い勝手を向上するために kintone のイベント以外のものも「条件」として利用できるようになっていきます。

カスタマイズを作成するときには「実現したいこと」とともに「どのイベント」でその処理を実行したいかを意識し、「実現したいこと」→「やること」、「イベント」→「条件」に置き換えていただくとスムーズにカスタマイズが作れます。

例) レコード一覧画面表示後に注意すべき案件を色を変えて目立たせたい

実現したいこと：案件を色を変えて目立たせたい

イベント：レコード一覧画面表示後

↓

やること：フィールド文字色を変更する

条件：一覧画面を表示した時

例) 入力時にユーザーに警告を促すために特定のフィールドの背景色を変えたい

実現したいこと：背景色を変えて警告を促したい

イベント：フィールド値変更

↓

やること：フィールド背景色を変更する

条件：フィールドの値を編集して値が変わった時

また、イベントごとの特性や制約を理解することで、kintone の制約上実現できないことでも代替手段を検討することができます。

kintone の特性や制約によって実現できないことの例をあげますと、

1. kintone 側でイベントがない場合
2. イベントが発生しない場合
3. そのイベントでは実行できないカスタマイズの場合

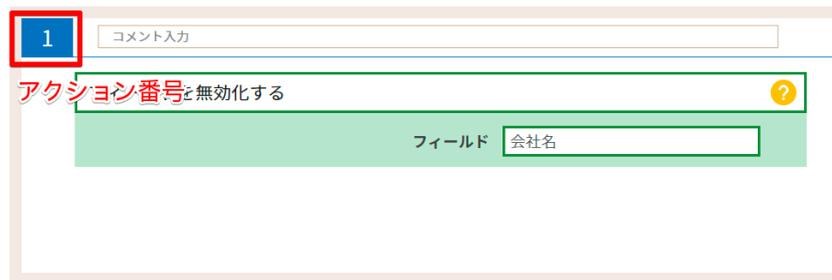
などがあり、例えば「フォームブリッジでデータが登録されたことを契機にカスタマイズを動かしたい」という要件は、「2. イベントが発生しない場合」に該当するためカスタマイズが動きません。

また、上記以外でもファイルから読み込んだ際にもカスタマイズが動きませんが、これも kintone の制約によるものです。

1-5. 実行順序

カスタマイズでアクションを作成すると、番号が自動的に付与されます。

これはアクション番号と呼ばれるもので、カスタマイズの実行順とは関係ありません。



全てのアクションは何かの「イベント」を起点に処理が開始され、「他のアクションの実行が完了した時」や「確認・入力ダイアログで「OK」を押した時」などで繋がっている順に処理されます。

アクションの実行順をわかりやすく確認するにはアクショングラフを表示していただくのが良く、カスタマイズ作成途中や作成後に表示してこまめに確認することをおすすめします。

なお、上手く動かないケースでよくあるのが、線で繋がっていないアクションの結果を参照したり、アクションの繋ぎ先を間違えているケースです。

特にアクションを複製した場合に設定を変え忘れているというケースは良くあります。

以下のように<条件:他のアクションの実行が完了した時>で同じアクション番号を指定したアクションが複数ある場合は、並行して処理されます。



また、これら複数のアクションが全て終わった時に次のアクションを続ける場合は、<条件：他のアクションの実行が完了した時> で全てのアクションを指定してください。

アクショングラフを閉じる マウスドラッグで移動、ホイールで拡大縮小ができます。

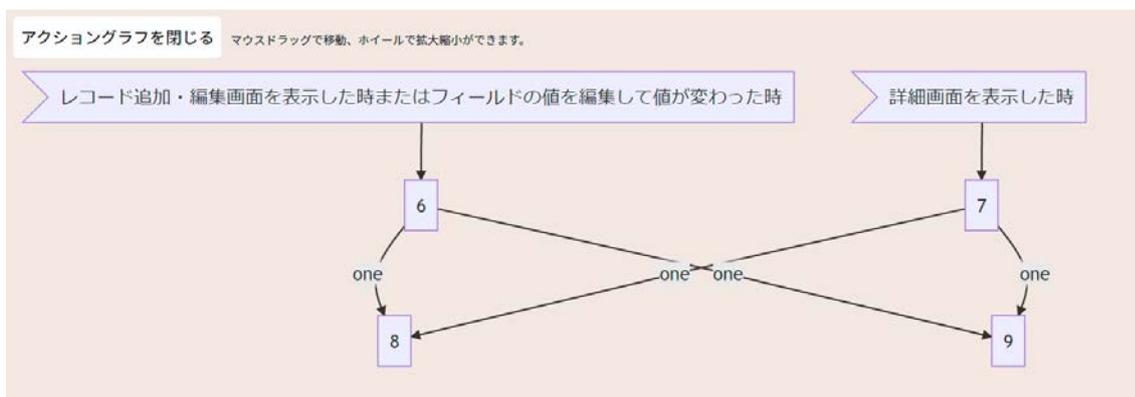
レコードを保存する直前 (削除時は除く)

```

graph TD
    1 -- all --> 2
    1 -- all --> 3
    1 -- all --> 4
    2 -- all --> 5
    3 -- all --> 5
    4 -- all --> 5
    
```

その他にも <条件：いずれかのアクションの実行が完了した時> を使うと、指定したアクションのいずれかが完了した時にアクションが処理されます。

この条件は例えば、入力した金額によって処理を分ける場合などのようにどれか1つが実行された後、同じ処理が続くような場合に使います。



2. 実例に学ぶカスタマイズ作成のポイント

2-0. 本書で使用するアプリテンプレート

本書で使用するアプリはアプリテンプレートとして弊社サポートサイトで配布しています。必要に応じて以下 URL よりダウンロードして使用してください。

<https://support.gusuku.io/ja-JP/support/solutions/folders/36000240808>

2-1. カスタマイズ作成の主な流れ

Excel/PDF 出力するためのカスタマイズの作成は下記の手順で行います。

1. Excel/PDF 出力対象のレコードを取得

条件に一致するレコードを出力対象にしたい場合や一覧画面にチェックボックスを追加して選択したレコードのみを出力したい場合など、Excel/PDF 出力の際には出力対象とするレコードを取得する処理が必要になります。

2. テンプレートファイルを取得

出力に使用するテンプレートファイルが保存されているレコードを、テンプレート管理アプリから取得します。

3. Excel/PDF を出力

取得したテンプレートファイルの設定内容に基づいて出力処理を行います。

4. Excel/PDF ファイルの出力先を指定

生成したファイルは出力先を「ダウンロード」(即座にダウンロードする)「添付ファイルフィールド」(kintone の添付ファイルフィールドに添付する)「ブラウザのタブ」(タブにすぐ表示する ※ PDF の場合のみ選べる) などから出力先を選択することができます。

例として、出力したファイルをレコードに添付したい場合には [やること: **レコードを更新する(キーの値をフィールドで指定)**] など添付ファイルフィールドにセットすることが可能です。

2-2. 基本編その1：詳細画面からの出力

前述の、「1-2-1. カスタマイズを作成する前におこなうこと」や「2-1. カスタマイズ作成の主な流れ」にて記載している基本的な手順を理解していただいた上で、実際の運用に近いカスタマイズ例をもとに作成してみましょう。

まずは一番シンプルな形である、アプリの詳細画面からの出力を例にとって説明していきます。

今回は「見積書」アプリに登録しているレコード情報を元に、詳細画面に設置したボタンを押下した時に PDF ファイルを出力します。

弊社サポートサイトにて配布しております、「sample_ 御見積書テンプレート」を使って出力を行っていただきますと、以下のような形で出力されます。

The image shows two screenshots of the '御見積書' (Invoice) app. The left screenshot shows a list of items with columns for 'No.', '品名', '単価', '数量', and '小計'. The right screenshot shows the detailed view of a selected item, with a red arrow pointing to a button labeled '御見積書' (Invoice) in the top right corner. Below the button, there is a table with the same columns as the list view, showing the details of the selected item.

No.	品名	単価	数量	小計
1	C-001 gusuku Customise 内装アプリ	18,000	1	18,000
2	C-005 gusuku Customise 追加アプリ	6,000	3	18,000
3	D-001 gusuku Desktop スタンド	12,000	1	12,000

想定するアプリ構成

「見積書」アプリ

「出力テンプレート」アプリ

使用するテンプレートファイル

「御見積書テンプレート」

「sample_御見積書テンプレート」

テンプレートファイルを作成

カスタマイズを作成する前に、テンプレートファイルを作成して出力テンプレートアプリに登録します。

テンプレートファイル作成時のポイント

ファイル出力の際、固定となる**文字**、**装飾**、**ページのレイアウト**などについては作成するテンプレートファイル（Excel）側で予め、見た目を調整した形で設定しておいてください。

今回の場合、「御見積書テンプレート」は事前に見た目を整えたものを使用しています。またこの際の注意事項として、テンプレートファイル内に関数が設定されている場合やセルの結合をしている場合、意図した通りにファイルが出力されない可能性があります。そのため実際に試される際には、まずは複雑な装飾をせずシンプルな形にて意図する内容が出力されるか確認された後に、見た目を整える手順としていただきますと、上手く行かない場合に原因を特定しやすく、修正もしやすいのでおすすめです。

また、テンプレートファイルで出力させたいフィールドの指定を行うには、フィールドコードとgusukuコマンドを利用します。このためフィールドの指定を行う前にフィールドコードを確認しておく必要があります。

まずは、「見積書」アプリのテーブル以外に設定されているフィールドコードを確認し、テンプレートファイルに設定してみましょう。

フィールド名 フィールドコード	テーブル 関連レコード	フィールドコード
宛名	—	文字列(1行)
宛名	—	文字列(1行)
見積日	—	日付
備考	—	文字列(複数行)

テーブル以外のフィールドは、フィールド値をそのまま出力させたいので、下記の gusuku コマンドを使用します。

gusuku コマンド	説明
\$ (フィールドコード)	指定したフィールドコードの値を出力します
\$DATE (フィールドコード)	指定したフィールドコードを日付として扱い、出力します

「御見積書テンプレート」内のテーブル以外で背景色が赤くなっているセルにフィールドコードと gusuku コマンドを入力します。

※ gusuku コマンド入力の \$ や () は必ず半角で入力してください。

gusuku コマンドについて

gusuku コマンドは基本的に、kintone に設定しているフィールドタイプによって使い分けてください。

○フィールドタイプが数値の場合

数値の場合は、\$NUM(フィールドコード)を使用してください。\$(フィールドコード)でも出力可能ですが、Excel のセル書式設定が意図する表示にならない場合があります。

○フィールドタイプが日付の場合

日付の場合は、\$DATE(フィールドコード)を使用してください。使用していない場合、Excel 側の表示形式が反映されません。

例) 日付フィールドの入力値が「2022-02-10」の時

日付

2022-02-10

仮に Excel 上の書式設定 (Excel のセル書式設定 > 表示形式 > 日付) の種類を「2012 年 3 月 14 日」と設定していても、\$(フィールドコード)で出力した場合はこの日付情報は出力ファイル上では文字列として格納されてしまい、出力結果が意図する表示になりません。

\$(フィールドコード) → 2022-02-10 (意図しない表記)

\$DATE(フィールドコード) → 2022 年 2 月 10 日

御見積書					
\$ (宛名)		様		御見積番号: \$(見積番号) 御見積日: \$DATE(見積日)	
アールスリーインスティテュート					
					御見積額
見積明細:					
NO	型番	商品名	単価	数量	小計
備考:					
\$ (備考)					

ここまでで、テーブル以外のフィールドを出力するためのテンプレートファイルは完成です。
このテンプレートファイルを「出力テンプレート」アプリに登録しておきます。



カスタマイズ作成

次に、PDF 出力をするためのカスタマイズを作成します。ここでは PDF を出力すると想定しています。
Excel や CSV 出力の時は適宜読み替えて下さい。

まず、詳細画面表示の際にボタンを設置し、押下した際に [やること: **キーを指定してレコードを取得する**] を使用して、先ほど作成した御見積書テンプレートを登録したレコードを取得しておきます。

7

有効 ^ ...

ボタンをメニュー位置に配置する
?

場所

ラベル

追加位置

詳細画面を表示した時
?

8

有効 ^ ...

キーを指定してレコードを取得する
?

取得先アプリ

キーとなるフィールド

キーの値

最大取得件数

ボタンを押した時
?

ボタン

9

有効 ^ ...

PDFを出力する
?

gusuku APIキー

データレコード

テンプレートレコード

テンプレートフィールド

出力先

ファイル名

他のアクションの実行が完了した時
?

アクション

PDF 出力を行うために、[やること: **PDF を出力する**] を使用します。この「やること」は取得したレコード情報をもとに PDF ファイルを生成・出力します。

「gusuku API キー」には「gusuku API キー取得 (1-2-1. カスタマイズを作成する前におこなうこと)」の手順に従って取得したキーを登録します。

「データレコード」でレコードを選択しない場合は、表示されているレコードが出力対象になります。今回の場合はユーザーが開いている詳細画面の内容を出力するため、レコードを選択する必要はありません。

※レコードを選択して出力したい場合は、別で事前にレコードを取得するアクションが必要となります。

「テンプレートレコード」では、テンプレートファイルを登録したアプリからレコードを取得したアクション番号を選択します。またテンプレートレコードで選択するレコードは必ず事前に取得しておきます。もし取得できていない場合は、下記のように「テンプレートレコードがありません」というエラーが表示されます。この場合はアクショングラフを利用して [やること: **PDF を出力する**] が実行される前にテンプレートレコードの元となるレコードが取得できているかを確認しましょう。



「ファイル名」には出力した日付やレコードのフィールド名、固定文字などが指定できます。
 今回はファイル名を「= " 御見積書_" & 見積番号」と指定しています。この設定の場合、出力レコードの見積番号が「20211202-01」と入力されているとファイル名は「御見積書_20211202-01.pdf」として出力されます。

以上でテーブル以外のカスタマイズは完成です。
 テンプレートで指定したフィールド内容は PDF 出力されたでしょうか？



意図した通りに出力されない場合は、「sample_ 御見積書テンプレート」の記述を確認してみましょう。
 このテンプレートファイルを利用して、出力内容を確認するためには、「出力テンプレート」アプリに登録しているテンプレートファイルを変更して出力をお試しください。



テーブルを含めた出力

では、次にこれまでの内容にテーブルを含めた PDF 出力を行います。
 先ほど使用した「御見積書テンプレート」のテーブル部分に下記の gusuku コマンドを利用して、設定してみましょう。

フィールドコード	テーブル	フィールドタイプ
NO	見積明細	数値
型番	見積明細	ルックアップ
商品名	見積明細	文字列(1行)
単価	見積明細	数値
数量	見積明細	数値
小計	見積明細	計算
合計金額	—	計算

テーブル内のフィールドと合計金額を出力するために使用する gusuku コマンドは以下の通りです。

gusuku コマンド	説明
\$FOREACH(テーブル) および \$END	\$FOREACH を記述した行から、 \$END を記述した行まで、 ループし出力します
\$FOREACH(関連レコードのフィールドコード) および \$END	
\$NUM(フィールドコード)	指定したフィールドコードを 日付として扱い、出力します

なお、\$FOREACH(テーブルのフィールドコード) および \$END を使用することでテーブルに登録されている行数分を繰り返して出力することができます。

テーブル内のフィールドタイプが数値以外のフィールドは、これまでと同様に \$(フィールドコード) を使用して出力します。

御見積額は小計と同じ「計算」フィールドですので、\$NUM(合計金額) の記述でも出力可能ですが、今回は Excel の SUM 関数を使用して、出力してみましょう。

\$FOREACH(フィールドコード) および \$END で挟まれている行を計算させる場合は、\$FOREACH(フィールドコード) および \$END を記述した行も含めて範囲指定します。

御見積書					
\$ (宛名)		様		御見積番号: \$(見積番号) 御見積日: \$DATE(見積日)	
アールスリーインスティテュート					
御見積額				=SUM(G13:G15)	
見積明細:					
NO	型番	商品名	単価	数量	小計
\$FOREACH(見積明細)					
NUM(NO)	\$(型番)	\$(商品名)	\$NUM(単価)	\$NUM(数量)	\$NUM(小計)
\$END					
備考:					
\$(備考)					

テーブルの設定を反映したテンプレートファイルを「出力テンプレート」アプリのテンプレートファイルフィールドに登録します。

出力ファイルには登録されたテンプレートファイルの内容が反映されます。カスタマイズは先ほどと変わりありませんので、テーブルを含めた内容で出力されたかを確認してみてください。

意図した通りに出力されない場合は、「sample_ 御見積書テンプレート」の設定を確認してみましょう。

出力したファイルを自身のレコードに添付

先ほどのカスタマイズでは [やること : [PDF を出力する](#)] の出力先として「ダウンロード」を選択し

ていましたが、生成したPDFファイルをレコードの添付ファイルフィールドに添付したいという場合には、追加でアクションが必要になります。

以下では、詳細画面でPDFファイルを出力した上で自身のレコードにある添付ファイルフィールドに先ほど出力したPDFファイルをセットするカスタマイズをご説明します。

27 コメント入力

PDFを出力する

gusuku APIキー [暗号化されています]

データレコード <選択されていません>

テンプレートレコード 26

テンプレートフィールド テンプレートファイル

出力先 添付ファイルフィールド

ファイル名 ="御見積書_"&見積番号

「出力先」には「添付ファイルフィールド」を選択しておきます。この選択をすることで生成したPDFファイルはkintoneにアップロードされます。

※用途に応じて「ブラウザのタブと添付ファイルフィールド」や「ダウンロードと添付ファイルフィールド」などを使い分けてください。

しかし、kintoneにファイルをアップロードした時点では、ファイルはまだ実際に添付ファイルフィールドに保存されたわけではありません。

25 コメント入力

ボタンをメニュー位置に配置する

場所 レコード詳細メニューの上側

ラベル PDF出力

追加位置 一番右に追加する

詳細画面を表示した時

条件を追加

26 コメント入力

キーを指定してレコードを取得する

取得先アプリ [Excel出力編]見積書

キーとなるフィールド テンプレート名称

キーの値 御見積書テンプレート

最大取得件数 (入力されていません)

ボタンを押した時

ボタン 25

条件を追加

27 コメント入力

PDFを出力する

gusuku APIキー [暗号化されています]

データレコード <選択されていません>

テンプレートレコード 26

テンプレートフィールド テンプレートファイル

出力先 添付ファイルフィールド

ファイル名 ="御見積書_"&見積番号

他のアクションの実行が完了した時

アクション 26

条件を追加

28 コメント入力

レコードを更新する (キーの値をフィールドで指定)

更新先アプリ [Excel出力編]見積書

キーとなる更新先のフィールド レコード番号

キーの値となるこのアプリのフィールド レコード番号

マッピング 御見積書-527

更新の機会をチェックする チェックする

他のアクションの実行が完了した時

アクション 27

条件を追加

29 コメント入力

画面をリロードする

他のアクションの実行が完了した時

アクション 28

条件を追加

後続のアクションで「PDF を出力する」の結果を用いることで出力した PDF ファイルを添付ファイルフィールドにセットすることができます。

今回は [やること : **レコードを更新する (キーの値をフィールドで指定)**] を使用し、フィールドマッピングで添付ファイルフィールドに「=\$27」(=\$「PDF を出力する」のアクション番号) と指定して、PDF ファイルを添付します。

詳細画面では、手動でブラウザの画面を更新するまでは最新の情報は表示されません。

よって、最後に出力されたファイルが添付されているか確認するために [やること : **画面をリロードする**] を追加しておきます。

以上で出力したファイルを自身のレコードに添付するカスタマイズは完成です。

出力したファイルがレコードに添付されているか確認してみてください。

2-3. 基本編その 2 : 一覧画面からの出力

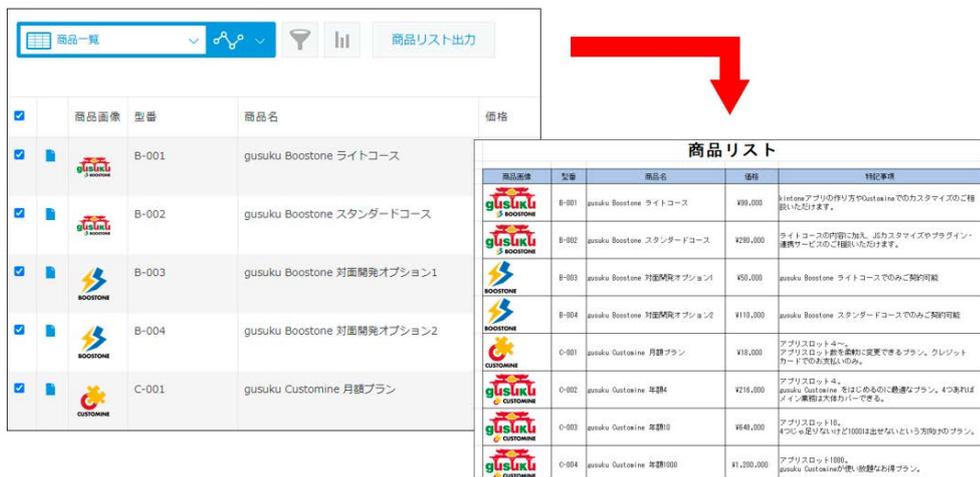
一覧画面からの出力を行う際も、これまでに学んだ「カスタマイズを作成する前におこなうこと」や「カスタマイズ作成の主な流れ」の基本的な手順は変わりありません。

出力する際に必要なテンプレートファイルの記述方法を理解していただければ、汎用的に活用いただけます。

一覧画面からリスト出力

まずは、「商品リスト」アプリの一覧画面から選択したレコードに対応した商品リスト一覧を Excel 出力するカスタマイズを説明していきます。

「2-0. 本書で使用するアプリテンプレート」内の「sample_商品リストテンプレート」で出力を行いますと以下のような形で出力されます。



商品画像	型番	商品名	価格
	B-001	gusuku Boostone ライトコース	
	B-002	gusuku Boostone スタンダードコース	
	B-003	gusuku Boostone 対面開発オプション1	
	B-004	gusuku Boostone 対面開発オプション2	
	C-001	gusuku Customine 月額プラン	

商品画像	型番	商品名	価格	特記事項
	B-001	gusuku Boostone ライトコース	¥99,000	Intoneアプリの作り方やOutsineでのカスタマイズのご説明が含まれます。
	B-002	gusuku Boostone スタンダードコース	¥299,000	ライトコースの内容に加え、追加カスタマイズやオンライン連携サービスのご説明が含まれます。
	B-003	gusuku Boostone 対面開発オプション1	¥50,000	gusuku Boostone ライトコースでのみご契約可能
	B-004	gusuku Boostone 対面開発オプション2	¥110,000	gusuku Boostone スタンダードコースでのみご契約可能
	C-001	gusuku Customine 月額プラン	¥18,000	アプリインストール4ヶ月、アプリロック解除後に変更できるプラン。クレジットカードでの決済のみ。
	C-002	gusuku Customine 年額1	¥216,000	アプリインストール4ヶ月、gusuku Customine をはじめの月に最適なプラン。4ヶ月以降は月額料金がかかります。
	C-003	gusuku Customine 年額10	¥2,160,000	アプリインストール10ヶ月、gusuku Customine をはじめの月に最適なプラン。4ヶ月以降は月額料金がかかります。
	C-004	gusuku Customine 年額1000	¥21,600,000	アプリインストール1000ヶ月、gusuku Customine をはじめの月に最適なプラン。

想定するアプリ構成

「商品リスト」アプリ

「出力テンプレート」アプリ

使用するテンプレートファイル

「商品リストテンプレート」

「sample_商品リストテンプレート」

カスタマイズを作成する前に行うこと

「商品リスト」アプリのレコード情報を入力するためのテンプレートファイルを作成し、「出力テンプレート」アプリに事前に登録しておきます。

テンプレートファイルを作成

「商品リスト」アプリの一覧画面から、商品リスト一覧を出力するためのテンプレートファイルを作成します。(参照：[「テンプレートファイル作成時のポイント」](#))

「商品リスト」アプリで出力させるフィールドコードを確認し、テンプレートファイルに設定してみましょう。

フィールドコード	フィールドタイプ
商品画像	添付ファイル
型番	文字列(1行)
商品名	文字列(1行)
単価	数値
特記事項	文字列(複数行)

商品リスト一覧で選択した複数レコードを出力するためには、レコード数分繰り返して出力を行う \$FOREACH および \$END を使用します。

※基本編-1 でテーブル行数分を出力する際には \$FOREACH(フィールドコード) の記述でしたが、パラメーター「データレコード」で出力するレコードを指定する場合は(フィールドコード)部分は不要です。

gusuku コマンド	説明
\$FOREACH および \$END	\$FOREACH を記述した行から、\$END を記述した行まで、「データレコード」で指定されたレコード数分ループし出力します
\$IMG(フィールドコード)	PNG / JPEG / GIF / BMP 形式の画像が添付されている場合、そのカラムに画像を出力します

※ gusuku コマンド入力の \$ や () は必ず半角で入力してください。

(テンプレート記述例)

商品リスト				
商品画像	型番	商品名	価格	特記事項
\$FOREACH				
\$IMG(商品画像)(0)	\$(型番)	\$(商品名)	\$NUM(価格)	\$(特記事項)
\$END				

商品画像フィールドに登録しているファイルを出力するための記述は、\$IMG(商品画像)(0)と指定します。

※\$IMG(商品画像)(0)の「(0)」の部分は、商品画像フィールドに登録している1つ目のファイルを示しています。

テンプレートファイルを作成したら、「出力テンプレート」アプリに登録しておきます。

添付ファイルフィールドに複数のファイルがある場合

kintoneの添付ファイルフィールドには複数のファイルを登録することができます。

上記では登録されている1つ目のファイルを出力する例を紹介しましたが、同様に2つ目以降のファイルの出力も可能です。

- ・2つ目と3つ目の画像のみを出力させたい場合

\$IMG(フィールドコード)(1)

\$IMG(フィールドコード)(2)

また、登録されているファイルを全て出力したい場合は使用すべきgusukuコマンドは異なります。

- ・登録しているファイルを全て出力させたい場合

\$FOREACH(フィールドコード)および\$ENDを使用して、登録しているファイル数の分、処理を繰り返して出力します。

	型番	商品画像
3		
4	\$FOREACH	
5	\$(型番)	
6		\$FOREACH(商品画像)
7		\$IMG
8		\$END
9	\$END	

商品画像フィールドに添付されたファイルを全て出力できます

※\$FOREACH(フィールドコード)および\$ENDを記述している行は出力される際に削除されますので、\$FOREACH(フィールドコード)および\$ENDの隣には記述しないようにしてください。

	型番	商品画像
13		
14	\$FOREACH	
15	\$(型番)	\$FOREACH(商品画像)
16		\$IMG
17		\$END
18	\$END	

この例ですと型番フィールドの入力値は出力されません

カスタマイズ作成

次に、Excel 出力をするためのカスタマイズを作成します。

まず、一覧画面を表示した際にレコードを選択するためのチェックボックスと出力ボタンを設置します。出力ボタン押下した際に [やること : キーを指定してレコードを取得する] を使用して、先ほど作成した商品リストテンプレートを登録したレコードを取得しておきます。

また、「一覧で選択されたレコードを取得する」を使用して、チェックボックスで選択したレコードを取得します。

The image shows four sequential screenshots of a customization interface, numbered 8 through 11. Each screenshot has a 'コメント入力' (Comment input) field at the top and a '有効' (Active) button on the right. Screenshot 8 shows the configuration for 'ボタンをメニュー位置に配置する' (Place button in menu position) with fields for '場所' (Location: 一覧画面メニューの右側), 'ラベル' (Label: 商品リスト出力), and '追加位置' (Add position: 一番右に追加する). Screenshot 9 shows '一覧にチェックボックス列を追加する' (Add checkbox column to list) and '一覧画面を表示した時' (When list screen is displayed) with a '条件を追加' (Add condition) field. Screenshot 10 shows '一覧で選択されたレコードを取得する' (Get records selected in list) and 'ボタンを押した時' (When button is pressed) with a 'ボタン' (Button: 8) field. Screenshot 11 shows 'キーを指定してレコードを取得する' (Get records by specifying key) with fields for '取得先アプリ' (Get from app: [Excel出力編]出力テンプレート), 'キーとなるフィールド' (Key field: テンプレート名称), 'キーの値' (Key value: 商品リストテンプレート), and '最大取得件数' (Max records: (入力されていません)). It also shows 'ボタンを押した時' (When button is pressed) with a 'ボタン' (Button: 8) field and a '条件を追加' (Add condition) field.

Excel 出力を行うために、[やること : Excel を出力する] を使用します。この「やること」では取得したレコード情報をもとに Excel ファイルを生成・出力します。

[やること : Excel を出力する] で設定するパラメーターは [やること : PDF を出力する] と変わりありませんので、まずは設定してみましょう。(参照：基本編 -1 カスタマイズ作成)

一覧で選択したレコードが出力されたでしょうか。

(間違ったカスタマイズ)

Screenshot 12 shows the configuration for 'Excelを出力する' (Output Excel). The 'データレコード' (Data record) field is set to '<選択されていません>' (None selected), which is incorrect. Other fields include 'gusuku APIキー' (gusuku API key: [暗号化されています]), 'テンプレートレコード' (Template record: 11), 'テンプレートフィールド' (Template field: テンプレートファイル), '出力先' (Output destination: ダウンロード), and 'ファイル名' (File name: 商品リスト). The right side shows '他のアクションの実行が完了した時' (When other actions are completed) with 'アクション' (Action: 10,11) and a '条件を追加' (Add condition) field.

上記のカスタマイズですと「データレコード」を選択していないので、一覧で画面に表示されているレコードが出力されてしまいます。今回の場合は、一覧で選択したレコードを出力したいので、「データレコード」には「一覧で選択されたレコードを取得する」のアクション番号を指定する必要があります。

(正しいカスタマイズ)

12

有効 ↑ ...

Excelを出力する ?

gusuku APIキー

データレコード

テンプレートレコード

テンプレートフィールド

出力先

ファイル名

他のアクションの実行が完了した時 ?

アクション

条件を追加

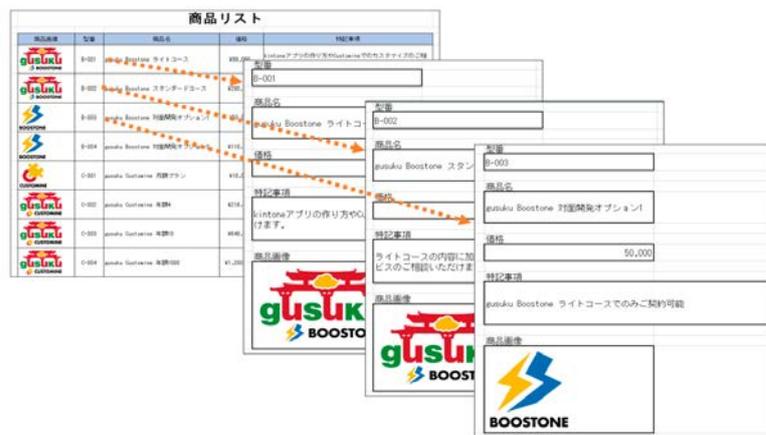
以上で商品リスト一覧の Excel 出力をするカスタマイズは完成です。
 一覧で選択したレコードの内容は正しく出力されたでしょうか？

意図した通りに出力されない場合は、「sample_商品リストテンプレート」の記述を確認してみましょう。このテンプレートファイルを利用して、出力内容を確認するためには、「出力テンプレート」アプリに登録しているテンプレートファイルを変更して出力をお試しください。

一覧画面からレコード別シート出力

では次に、一覧で選択したレコードの商品ごとの詳細をシートに分けたテンプレートファイルを作成します。

事前にご用意しました「sample_商品リストテンプレート（詳細）」で出力を行いますと以下のような形で出力されます。



まず、先ほど使用した「商品リストテンプレート」にシートを追加し、シートに出力したい内容を記述します。

フィールドコード	フィールドタイプ
型番	文字列(1行)
商品名	文字列(1行)
単価	数値
商品画像	添付ファイル
特記事項	文字列(複数行)

(テンプレート記述例)

型番	
\$(型番)	
商品名	
\$(商品名)	
価格	
\$(NUM(価格))	
特記事項	
\$(特記事項)	
商品画像	
\$(IMG(商品画像)(0))	

使用する gusuku コマンドは先ほど使用したものと変わりありません。

一覧で選択したレコード数分の詳細をシート毎に出力するためには、テンプレートのシート名先頭に「#」を付けます。

このように記述することで、自動的にレコードの数だけシートが複製されます。

(テンプレート)

16	
17	
商品リスト #商品詳細 (+)	

(出力後)

16				
17				
商品リスト 商品詳細 商品詳細_1 商品詳細_2 商品詳細_3				

「# 商品詳細」シートも含めたテンプレートファイルを「出力テンプレート」アプリに登録し、先ほど作成したカスタマイズを利用して、再度 Excel 出力してみましょう。

1 シート目には商品リスト、2 シート目以降に商品ごとの詳細シートが出力されたかを確認してみてください。

Job Runner を使用した出力

Excel/PDF 出力は kintone アプリのカスタマイズだけでなく Job Runner (定期実行・Webhook) でも行うことができます。Job Runner における処理でも「1-2-1. カスタマイズを作成する前におこなうこと」や「2-1. カスタマイズ作成の主な流れ」などの基本的な手順は変わりません。ただし、出力するタイミングや出力先によっては、Job Runner でしかできないこともありますので、用途に応じて使い分ける必要があります。

※本書では Job Runner を利用したカスタマイズは割愛しますが、例として以下のような要件は Job Runner のみで実現が可能です。

- I. 定期実行を使用して夜間に自動で一括出力し、各レコードに出力ファイルを添付する
- II. Webhook を使用することで、Excel/PDF をリアルタイムに生成せず、生成が終わった後に出力ファイルを添付する

※大量のレコードをもとにした Excel/PDF 生成は時間がかかる可能性があります。「kintone アプリのカスタマイズ」を使用したカスタマイズだと生成が終わるまでユーザーが画面操作を行えなくなります。これを避けるための方法として、「kintone アプリの Webhook」を使用して Job Runner 側でのファイル出力とする方式とすることで、バックグラウンドで処理を行うことが可能となります。

参考：出力時間を待ちたくない方へ！特定のステータスに変更したとき、Excel/PDF 出力を行う

<https://support.gusuku.io/ja-JP/support/solutions/articles/36000316678>

2-4. 応用編その 1：同じレコードのデータを複数の形式で出力したい場合

基本編のカスタマイズではテンプレートを 1 つだけ指定していましたが、実際にはテンプレートは何種類も存在していて、ユーザーや用途に分けて使用したいケースもあると思います。このような場合は、出力する際に選択できるととても便利ですよね。

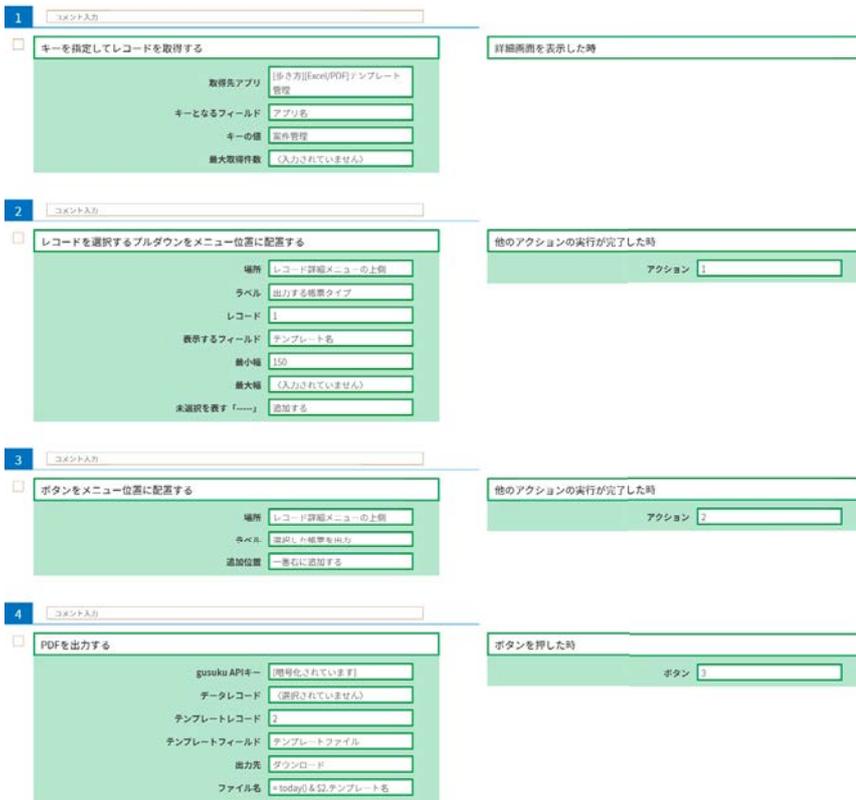
例えば、以下のように同一のレコードから「見積書」「請求書」「納品書」を選択して出力することができます。



テンプレート管理アプリには予め以下のようにテンプレートファイルを登録しておきます。この例では「案件管理」アプリに「納品書」「請求書」「見積書」の 3 種類のテンプレートファイルを登録します。

アプリ名	帳票タイプ	テンプレート名	テンプレートファイル
顧客管理	一覧	顧客リスト	顧客リストテンプレート.xlsx
案件管理	単票	納品書	納品書テンプレート.xlsx
案件管理	単票	請求書	請求書テンプレート.xlsx
案件管理	単票	見積書	見積書テンプレート.xlsx
商品マスタ	一覧	画像入り商品マスタ	画像付き商品マスタテンプレート.xlsx

基本編その1：詳細画面からの出力で作成したカスタマイズを応用して以下のようにカスタマイズを作成すると、「出力テンプレート」に登録している複数のテンプレートをプルダウンで選択できます。



2-5. 応用編その2：複数ページにまたがる出力

基本編-1の「御見積書テンプレート」を使用して見積明細行が多い見積を出力した場合、出力は次のような形になります。

The image shows two screenshots of a '御見積書' (Quotation) document. The left screenshot shows the first page with a table of items. The right screenshot shows the continuation of the table on a second page.

御見積書
 アルスリー商事 様
 御見積番号: 20211202-02
 発行曜日: 2021-12-02
 アルスリースタンプ
 総見積額: 8,811,000

品番	品名	単価	数量	小計	
1	B-001	gusaku Boatone 945コース	99,000	1	99,000
2	B-002	gusaku Boatone スーパーコース	290,000	1	290,000
3	B-003	gusaku Boatone 対応乗客オプション1	50,000	1	50,000
4	B-004	gusaku Boatone 対応乗客オプション2	110,000	1	110,000
5	C-001	gusaku Customer 月費プラン	18,000	1	18,000
6	C-002	gusaku Customer 乗客A	216,000	1	216,000
7	C-003	gusaku Customer 乗客B	648,000	1	648,000
8	C-004	gusaku Customer 乗客1000	1,200,000	1	1,200,000
9	C-005	gusaku Customer 追加オプションA	6,000	1	6,000
10	D-001	gusaku Depot スーパーデポ	12,000	1	12,000
11	D-002	gusaku Depot プロフェッショナル	48,000	1	48,000
12	D-003	gusaku Depot エンタープライズ	120,000	1	120,000
13	D-004	gusaku Depot ハイパフォーマンス	120,000	1	120,000
14	B-001	gusaku Boatone 945コース	99,000	1	99,000
15	B-002	gusaku Boatone スーパーコース	290,000	1	290,000
16	B-003	gusaku Boatone 対応乗客オプション1	50,000	1	50,000
17	B-004	gusaku Boatone 対応乗客オプション2	110,000	1	110,000
18	C-001	gusaku Customer 月費プラン	18,000	1	18,000
19	C-002	gusaku Customer 乗客A	216,000	1	216,000
20	C-003	gusaku Customer 乗客B	648,000	1	648,000
21	C-004	gusaku Customer 乗客1000	1,200,000	1	1,200,000
22	C-005	gusaku Customer 追加オプションA	6,000	1	6,000
23	D-001	gusaku Depot スーパーデポ	12,000	1	12,000
24	D-002	gusaku Depot プロフェッショナル	48,000	1	48,000
25	D-003	gusaku Depot エンタープライズ	120,000	1	120,000
26	D-004	gusaku Depot ハイパフォーマンス	120,000	1	120,000

備考:
 ■見積書金額は消費税別です。消費税は別途5000円以内
 gusakuおよびG-Inhouseの別種別にて見積りを行うことも可能です。

この出力内容ですと2ページ目以降には表のヘッダ部となる明細項目名が表示されないため、見づらくなってしまいます。

上記のような問題を解消する方法として、Excelのヘッダ機能を使用します。この機能を使用した「sample_御見積書テンプレート_ヘッダ」は以下のような形で出力されます。

御見積書

アールスリー商事 様

御見積番号: 20211202-02
 御見積日: 2021-12-02
 アールスリーシステムテュート

御見積額: 8,811,000

NO	品番	商品名	単価	数量	小計
1	B-001	gmsku Boostone スタンドデスク	99,000	1	99,000
2	B-002	gmsku Boostone スタンドデスク	290,000	1	290,000
3	B-003	gmsku Boostone 対応開発マシン1	50,000	1	50,000
4	B-004	gmsku Boostone 対応開発マシン2	110,000	1	110,000
5	C-001	gmsku Customine 月額プラン	18,000	1	18,000
6	C-002	gmsku Customine 年額4	216,000	1	216,000
7	C-003	gmsku Customine 年額10	648,000	1	648,000
8	C-004	gmsku Customine 年額1000	1,200,000	1	1,200,000
9	C-005	gmsku Customine 追加アクセス	6,000	1	6,000
10	D-001	gmsku Deplot スタンダード	12,000	1	12,000
11	D-002	gmsku Deplot プロフェッショナル	48,000	1	48,000
12	D-003	gmsku Deplot エンタープライズ	120,000	1	120,000
13	D-004	gmsku Deplot ハイブリッドオプション	120,000	1	120,000
14	B-001	gmsku Boostone スタンドデスク	99,000	1	99,000
15	B-002	gmsku Boostone スタンドデスク	290,000	1	290,000
16	B-003	gmsku Boostone 対応開発マシン1	50,000	1	50,000
17	B-004	gmsku Boostone 対応開発マシン2	110,000	1	110,000
18	C-001	gmsku Customine 月額プラン	18,000	1	18,000
19	C-002	gmsku Customine 年額4	216,000	1	216,000
20	C-003	gmsku Customine 年額10	648,000	1	648,000
21	C-004	gmsku Customine 年額1000	1,200,000	1	1,200,000
22	C-005	gmsku Customine 追加アクセス	6,000	1	6,000
23	D-001	gmsku Deplot スタンダード	12,000	1	12,000
24	D-002	gmsku Deplot プロフェッショナル	48,000	1	48,000
25	D-003	gmsku Deplot エンタープライズ	120,000	1	120,000
26	D-004	gmsku Deplot ハイブリッドオプション	120,000	1	120,000

NO	品番	商品名	単価	数量	小計
28	B-002	gmsku Boostone スタンドデスク	290,000	1	290,000
29	B-003	gmsku Boostone 対応開発マシン1	50,000	1	50,000
30	B-004	gmsku Boostone 対応開発マシン2	110,000	1	110,000
31	C-001	gmsku Customine 月額プラン	18,000	1	18,000
32	C-002	gmsku Customine 年額4	216,000	1	216,000
33	C-003	gmsku Customine 年額10	648,000	1	648,000
34	C-004	gmsku Customine 年額1000	1,200,000	1	1,200,000
35	C-005	gmsku Customine 追加アクセス	6,000	1	6,000
36	D-001	gmsku Deplot スタンダード	12,000	1	12,000
37	D-002	gmsku Deplot プロフェッショナル	48,000	1	48,000
38	D-003	gmsku Deplot エンタープライズ	120,000	1	120,000
39	D-004	gmsku Deplot ハイブリッドオプション	120,000	1	120,000

備考:
 ■御見積書は印刷用です
 ■御見積書は印刷用です(印刷日付欄60日以内)
 gmskuはJIS(漢字)の印刷用紙に印刷されたものとします。

このように、改ページを検討した上での表の出力はExcelのヘッダ機能を利用すると見やすくなります。

上記とは別の要件として、「備考」は見てもらいやすいように1ページ目にもみ出し、残りの明細行は2ページ目以降に全て出力したいということもあると思います。

この場合は、出力する行を指定して制御することで実現が可能です。

行指定を行った「sample_御見積書テンプレート_行指定」は以下のような形で出力されます。

御見積書

アールスリー商事 様

御見積番号: 20211202-02
 御見積日: 2021-12-02
 アールスリーシステムテュート

御見積額: 8,811,000

NO	品番	商品名	単価	数量	小計
1	B-001	gmsku Boostone スタンドデスク	99,000	1	99,000
2	B-002	gmsku Boostone スタンドデスク	290,000	1	290,000
3	B-003	gmsku Boostone 対応開発マシン1	50,000	1	50,000
4	B-004	gmsku Boostone 対応開発マシン2	110,000	1	110,000
5	C-001	gmsku Customine 月額プラン	18,000	1	18,000
6	C-002	gmsku Customine 年額4	216,000	1	216,000
7	C-003	gmsku Customine 年額10	648,000	1	648,000
8	C-004	gmsku Customine 年額1000	1,200,000	1	1,200,000
9	C-005	gmsku Customine 追加アクセス	6,000	1	6,000
10	D-001	gmsku Deplot スタンダード	12,000	1	12,000
11	D-002	gmsku Deplot プロフェッショナル	48,000	1	48,000
12	D-003	gmsku Deplot エンタープライズ	120,000	1	120,000
13	D-004	gmsku Deplot ハイブリッドオプション	120,000	1	120,000
14	B-001	gmsku Boostone スタンドデスク	99,000	1	99,000
15	B-002	gmsku Boostone スタンドデスク	290,000	1	290,000
16	B-003	gmsku Boostone 対応開発マシン1	50,000	1	50,000
17	B-004	gmsku Boostone 対応開発マシン2	110,000	1	110,000
18	C-001	gmsku Customine 月額プラン	18,000	1	18,000
19	C-002	gmsku Customine 年額4	216,000	1	216,000
20	C-003	gmsku Customine 年額10	648,000	1	648,000

備考:
 ■御見積書は印刷用です
 ■御見積書は印刷用です(印刷日付欄60日以内)
 gmskuはJIS(漢字)の印刷用紙に印刷されたものとします。

NO	品番	商品名	単価	数量	小計
21	C-004	gmsku Customine 年額1000	1,200,000	1	1,200,000
22	C-005	gmsku Customine 追加アクセス	6,000	1	6,000
23	D-001	gmsku Deplot スタンダード	12,000	1	12,000
24	D-002	gmsku Deplot プロフェッショナル	48,000	1	48,000
25	D-003	gmsku Deplot エンタープライズ	120,000	1	120,000
26	D-004	gmsku Deplot ハイブリッドオプション	120,000	1	120,000
27	B-001	gmsku Boostone スタンドデスク	99,000	1	99,000
28	B-002	gmsku Boostone スタンドデスク	290,000	1	290,000
29	B-003	gmsku Boostone 対応開発マシン1	50,000	1	50,000
30	B-004	gmsku Boostone 対応開発マシン2	110,000	1	110,000
31	C-001	gmsku Customine 月額プラン	18,000	1	18,000
32	C-002	gmsku Customine 年額4	216,000	1	216,000
33	C-003	gmsku Customine 年額10	648,000	1	648,000
34	C-004	gmsku Customine 年額1000	1,200,000	1	1,200,000
35	C-005	gmsku Customine 追加アクセス	6,000	1	6,000
36	D-001	gmsku Deplot スタンダード	12,000	1	12,000
37	D-002	gmsku Deplot プロフェッショナル	48,000	1	48,000
38	D-003	gmsku Deplot エンタープライズ	120,000	1	120,000
39	D-004	gmsku Deplot ハイブリッドオプション	120,000	1	120,000

ここでは明細行の後に「備考」を出力したいので、出力する明細行の範囲を指定します。

※1ページ目に何行分印字することができるかは、テンプレートの行幅指定やフォーマットにより異なるため、実際に出力していただき指定行数を調整してください。

出力する行の範囲を指定する方法

テーブルに登録されている行数分を繰り返して出力するために、\$FOREACH(テーブルのフィールドコード)および\$ENDを使用します。今回は、1ページ目に明細行を20行分出力し、2ページ以降には21行目以降を出力するテンプレートを作成します。

\$FOREACH 部分を以下のように記述することで、1 行目から 20 行目までを明示的に指定して出力することが可能です。

(1 ページ目の記述)

NO	型番
\$FOREACH(見積明細)(0..19)	
\$(NO)	\$(型番)
\$END	

(2 ページ目の記述)

\$FOREACH(見積明細)(20..)	
\$(NO)	\$(型番)
\$END	

「..」の前後に数字を指定することで、どの行を出力するか制御することができます。数字を指定しない場合は、「全て」という意味になります。

今回の例ですと「(0..19)」の部分は、「0」が1行目、「19」が20行目を示しており、「(20..)」の部分は21行目以降の全てを指定する記述となります。

※この出力する範囲を指定する機能をスライスと呼びます。

このスライスはテーブルや関連レコードだけでなく、チェックボックスやユーザー選択など複数の値を入力できるフィールドで使用できます。

使用可能なフィールドについては、「[Excel/PDF 出力テンプレート リファレンスマニュアル](#)」をご確認ください。

このようにスライスの機能を利用することで、自在に出力範囲を制御することができます。是非ご利用ください。

2-6. 応用編その3：他アプリの情報出力

基礎編では単一アプリのレコード出力を紹介してきましたが、応用編として関連レコード一覧で紐付けられている複数のアプリのレコードを合わせて出力する方法を紹介します。

想定するアプリ構成

アプリテンプレート「顧客サポートパック」に含まれる「顧客管理」アプリ、「問い合わせ管理」アプリを使用します。

The screenshot displays two application views. On the left is the '顧客管理' (Customer Management) form, which includes fields for company name (林田商会), department name (ソリューション営業グループ), and contact information. On the right is the '問い合わせ管理' (Inquiry Management) list view, showing a table of inquiries with columns for date, status, and user. A yellow callout box with the text '関連レコード一覧として表示' (Display as a list of related records) points to a table of related records at the bottom of the inquiry list, which includes columns for '担当名称', '受付日時', '対応状況', '問い合わせ履歴', and '備考'.

顧客管理アプリのフィールドは以下のように設定されています。

フィールドコード	関連レコード	フィールドタイプ
会社名	—	文字列(1行)
部署名	—	文字列(1行)
顧客ランク	—	ラジオボタン
受付日時	対応一覧	日時
ご担当者名	対応一覧	文字列(1行)
対応状況	対応一覧	ドロップダウン
問い合わせ種別	対応一覧	ラジオボタン

この例では顧客管理アプリに登録されている顧客情報と併せて、関連レコードとして登録されている問い合わせ情報の一覧を以下のように出力します。

顧客カルテ一覧							お問い合わせ管理	
顧客名	担当者名	顧客ランク	受付日時	ご担当者名	対応状況	問合せ種別	詳細	
林田商会								
ソリューション営業グループ	森 偉	A	2018/03/02	森 偉	完了	その他	宗慶原新卒入社社員さまに向けての、製品勉強会開催のご相談	
ソリューション営業グループ	森 偉	A	2018/07/06	森 偉	対応中	受発注について	ライセンス料引き落とし口座変更のご依頼。	
ソリューション営業グループ	森 偉	A	2018/09/30	森 偉	完了	製品について	kintoneのプラグインの設定方法についてお問い合わせ。 ライセンス料だったので、プラグイン利用で支払い済みです。	
顧客管理アプリのデータ			問い合わせ管理アプリのデータ					
		問い合わせ件数:	5件					
新藤電子株式会社								
経理部	末永 紀里	B	2018/01/06	末永 紀里	完了	その他	新しい担当者名、製品セミナーに参加させたい	
経理部	末永 紀里	B	2018/02/21	末永 紀里	対応中	受発注について	kintoneゲストスペースのアカウントを10名500ユーザーで利用して るが、ゲスト利用の10社からゲスト利用料を直接サポート支払が ないかご相談いただきました。	
経理部	末永 紀里	B	2018/04/05	末永 紀里	対応中	製品について	kintone の連携サービスについて問い合わせ。 下記サイトをご案内 https://kintone-sol.cybozu.co.jp/integrate/	
		問い合わせ件数:	3件					
新山物産								
営業本部第一営業部	金子 真帆	A	2018/04/06	金子 真帆	完了	製品について	ユーザーでログインパスワードを思い出さないが、マニュアルはあるか。	
		問い合わせ件数:	1件					
若下総理士事務所								
情報システム部	佐々木 樹聖	A	2018/09/30	佐々木 樹聖	完了	製品について	ユーザーの追加とパスワードポリシーについて質問いただいた。 パスワードポリシーの仕様について回答に持ち帰り事項が発生した。	
		問い合わせ件数:	1件					

テンプレートファイルを作成

「顧客管理」アプリの一覧画面から、関連レコードを含めた顧客リストを出力するためのテンプレートファイルを作成します。(参照:「[テンプレートファイル作成時のポイント](#)」)

今回は、「顧客管理」アプリのデータ、「問い合わせ管理」アプリのデータがともに繰り返しのデータとなります。そのため、以下のように \$FOREACH ~ \$END を2箇所に記載します。

顧客カルテ一覧						
部署名	担当者名	顧客ランク	受付日時	ご担当者名	対応状況	問合せ種別
\$FOREACH						
\$(会社名)						
			\$FOREACH(対応一覧)			
\$(..)(部署名)	\$(..)(担当者名)	\$(..)(顧客ランク)	\$DATE(受付日時)	\$(ご担当者名)	\$(対応状況)	\$(問い合わせ種別)
			\$END			
		問い合わせ件数:	0件			
\$END						

また、テンプレート内の「\$(.)(部署名)」という記述は関連レコード以外のフィールドを出力するときの記述方法です。今回の例でいうと、出力対象アプリ（「顧客管理」アプリ）内のフィールド値を出力できます。

テンプレートファイルを作成したら、「テンプレート管理」アプリに「顧客リスト」という名前でテンプレートファイルを登録しておきます。

カスタマイズ作成

次に、Excel 出力をするためのカスタマイズを作成します。

一覧画面表示にボタンを設置し、ボタンを押下した際に [やること : キーを指定してレコードを取得する] を使用して、先ほど作成した顧客リストテンプレートを登録したレコードを取得しておきます。

The screenshot shows two steps of a customization process in a web application. Step 11 is titled 'ボタンをメニュー位置に配置する' (Configure button in menu position). It includes a '場所' (Location) dropdown set to '一覧画面メニューの右側' (Right side of the list screen menu), a 'ラベル' (Label) input field with '顧客カルテ出力' (Customer Card Output), and a '追加位置' (Add position) dropdown set to '一覧右に追加する' (Add to the right of the list). Step 12 is titled 'キーを指定してレコードを取得する' (Get records by specifying key). It includes a '取得先アプリ' (Target app) dropdown set to 'テンプレート管理' (Template Management), a 'キーとなるフィールド' (Key field) dropdown set to 'テンプレート名称' (Template Name), a 'キーの値' (Key value) input field with '顧客カルテ' (Customer Card), and a '最大取得件数' (Maximum number of records to retrieve) input field with '(入力されていません)' (Not entered).

続いて、出力対象となるレコードを取得します。今回は [やること : 一覧の条件でレコードを全件取得する] を使用して、一覧の条件に一致するレコードを取得します。レコード取得の後、Excel 出力を行うために、[やること : Excel を出力する] を使用します。この「やること」は取得したレコード情報をもとに Excel ファイルを生成・出力します。

The screenshot shows two more steps of the customization process. Step 13 is titled '一覧の条件でレコードを全件取得する' (Get all records by list conditions). It includes a dropdown for '他のアクションの実行が完了した時' (When other action execution is complete) set to 'アクション 12' (Action 12). Step 14 is titled 'Excel を出力する' (Output Excel). It includes a 'gusuku APIキー' (Gusuku API Key) input field with a placeholder '招待化されています!' (Invited!), a 'データレコード' (Data record) dropdown set to '11', a 'テンプレートレコード' (Template record) dropdown set to '12', a 'テンプレートフィールド' (Template field) dropdown set to 'テンプレート' (Template), an '出力先' (Output destination) dropdown set to 'ダウンロード' (Download), and a 'ファイル名' (File name) input field with '顧客カルテ' (Customer Card).

「gusuku API キー」には「**gusuku API キー取得**」の手順に従って取得したキーを登録します。

「データレコード」でレコードを選択しない場合は、表示されているレコードが出力対象になります。今回の場合は <アクション : 13> を指定します。

※レコードを指定しない場合は、一覧画面に表示されているレコードのみが出力されます。

「テンプレートレコード」では、テンプレートファイルを登録したアプリからレコードを取得したアクション番号 (<アクション : 12>) を選択します。テンプレートレコードで選択するレコードは必ず事前に取得しておきます。取得できていない場合は、「テンプレートレコードがありません」というエラーが表示されます。その場合はアクショングラフを利用して [やること : Excel を出力する] が実行される前にテンプレートレコードの元となるレコードが取得できているかを確認してみましょう。

「出力先」はダウンロードのままとしておきます。

「ファイル名」には出力した日付やレコードのフィールド名、固定文字などが指定できます。今回は、ファイル名を「顧客リスト」と指定します。

以上で顧客カルテを Excel 出力するカスタマイズは完成です。
一覧で選択したレコードの内容は正しく出力されたでしょうか？

3. うまく動かないときは？

この章では、うまく動かない時に原因を見つけるための方法と、便利なカスタマイズの機能について紹介します。

3-1. カスタマイズは少し作っては確認、少し作っては確認の繰り返しで育てよう

カスタマイズのカスタマイズは複数のアクションを組み合わせることで作成することが多く、慣れてくると多くのアクションによって構成される大きなカスタマイズを、一度も kintone アプリで試して動かさずに作ってしまいがちです。

一度も実行結果を試さずに作成した大きなカスタマイズは、うまく動かない場合にどのアクションに原因があるかを見つけるのが非常に大変です。

複数のアクションを組み合わせたカスタマイズでは、少し作ったら実行して動きを確認する→問題があれば直す→動きを確認する→問題なければ次のカスタマイズを追加する、という手順の繰り返しで作成することをおすすめします。

3-2. うまく動かない時に最初に確認するポイント

カスタマイズを「kintone アプリへ登録」して実行してみると、エラーが出たり、想定とは異なる結果になったりと、うまく動かないことがよくあります。

うまく動かないときは、ひとつひとつ原因となりそうな箇所を確認し、どこに原因があるのかを絞り込んでいくことになります。

カスタマイズのほかに JavaScript やプラグインが入っている時

JavaScript やプラグインは、カスタマイズのカスタマイズの動作に影響を与える場合があります。そのためカスタマイズがうまく動かないときは、まずは JavaScript やプラグインを削除・無効化し、kintone アプリにカスタマイズのカスタマイズのみが設定されている状態にして動作を確認してみてください。これは、原因がカスタマイズにあるのか、それとも JavaScript やプラグインが影響して動かないのかを判別し、問題を切り分けるために行います。

kintone アプリにカスタマイズのカスタマイズのみが登録されている状態で問題なく動作するのであれば、JavaScript やプラグインが影響してカスタマイズが動いていない可能性が高いです。

逆に、JavaScript やプラグインを削除・無効化してもカスタマイズがうまく動かない時はカスタマイズのカスタマイズが誤っている可能性が高いです。カスタマイズを見直してみてください。

※ドキュメントの「[外部サービス連携](#)」で連携している以外のプラグイン、及び自作 JavaScript ファイルが含まれた状態では、カスタマイズの動作は保証外となります。

外部サービス連携：

<https://docs-customine.gusuku.io/ja/actions/external/>

(ドキュメントで「外部サービス連携」を御覧ください)

※ JavaScript は後でもとに戻せるように、削除する前にダウンロードするなどして保存しておいてください。

3-3.Excel / PDF 出力において確認するポイント

まずはシンプルなテンプレートで確認

うまく動かないとご相談いただくケースで多いのが、利用するテンプレートファイルに多くの関数やマクロが入っているケースです。既存の Excel ファイルを活用してテンプレートファイルとして利用したいために発生する事象かとは思いますが、そのままでは何が問題となっているのかが判断できません。

そのため、まずは関数やマクロが入っていないテンプレートを用意して試していただき、そのうえで正しく動作することを確認しましょう。なお、マクロが組み込まれている Excel ファイルは正しく動作しない可能性があり、サポート対象外となります。また、カスタマイズのテンプレートファイルで利用可能な Excel の関数は以下サポートサイトに掲載しています。

対応 Excel 関数

<https://docs-customine.gusuku.io/ja/excelpdf/supportedfunc/>

Excel / PDF 出力で発生する主なエラーを確認する

ドキュメントには、Excel / PDF 出力で発生する主なエラーと対応方法を紹介したページが公開されています。エラーメッセージが表示されたら、エラーメッセージをドキュメントを検索してみてください。

Excel/PDF 出力のエラーとその対応方法

<https://docs-customine.gusuku.io/ja/excelpdf/errormessage/>

該当のセルを確認

エラーメッセージ内にセルの番地が表示されるケースもあります。以下のように cell に続いて Excel のセルの番地が表示されている場合には、該当のセルに問題がある可能性が高いです。この例では gusuku コマンドの括弧を閉じ忘れていることを示すエラーが表示されています。他のケースでも同様のエラーが表示された場合には、該当のセルに入力されている内容が間違いがないか確認してください。



ブラウザの設定を確認

エラーは出力されていないけれど、Excel や PDF のダウンロードができない場合、ブラウザのポップアップブロックの設定によりダウンロードが禁止されている可能性があります。まずはブラウザの設定をご確認いただき、ポップアップブロックの設定を解除した上で再度動作確認をしてください。ポップアップブロックによる影響かどうかの判断については別のブラウザや別の PC で試していただく判断しやすいこともありますので、併せてご確認ください。

3-4. エラーが表示されたとき

エラーが発生した際に表示されるメッセージには、原因を究明するための情報が含まれています。エラーダイアログが表示されると驚いてしまう事もあると思いますが、エラーの原因がそのまま記載されている事もありますので、一度心を落ち着けて読んでみてください。

カスタマイズのカスタマイズ画面で表示されるエラー

カスタマイズのカスタマイズ画面で表示されるエラーです。

下記の例では「ページ (3): アクション (11) : アクション: 無効なアクションです。 (10)」とあります。冒頭の「ページ (3): アクション (11) :」の部分がエラーとなっているアクション、その後がエラーの内容を示しています。

今回はアクション番号 11 で条件「他のアクションの実行が完了した時」に指定されたアクションが使用できない、というエラーです。

カスタマイズを見てもみると、アクション番号 10 が無効化されているため、使用できない状態になっていることがわかります。



カスタマイズ画面に表示されるエラーが解消するまでは「kintone アプリへ登録」を行うことができません。メッセージの内容を確認して、アクションの設定を確認・修正してみてください。

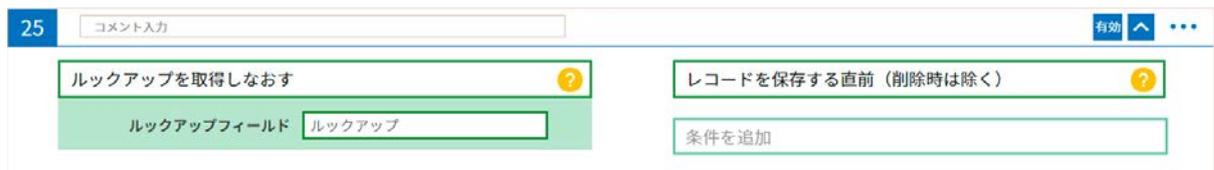
kintone アプリで表示されるエラーダイアログ

このような白いダイアログは、カスタミンによって表示されるダイアログです。こういったダイアログ表示は、カスタミンのカスタマイズでやることや条件の使い方が誤っている場合に表示されるエラーメッセージです。



このエラーは、[やること：ロックアップを取得しなおす] を、レコード保存前・保存後のタイミングで実行した時に表示されるエラーです。

エラーメッセージの前にある (25) のように、() で囲まれた数字が記載されている場合は、このアクション番号のアクションでエラーが起きている事を意味しています。今回の例では (25) ですので、【アクション：25】のアクションでエラーが起きていることがわかります。



このようなエラーが表示されたら、ドキュメントの「[制限事項](#)」の項目を確認してみてください。
[やること：[ロックアップを取得しなおす](#)] の制限事項は下記のように記載されています。

制限事項

- レコード編集画面、レコード追加画面のみで動作します。それ以外の画面で使用するとエラーが表示されます。
- レコードを保存するタイミングでは動作しません。レコードを保存するタイミングで「ロックアップを取得しなおす」した場合の動作は以下のようになります。

今回のエラーは、[やること：[ロックアップを取得しなおす](#)] が、レコードを保存するタイミングの <条件：[レコードを保存する直前 \(削除時は除く\)](#)> では使用できないため起こりました。使用するやことを変更するか、条件を変える必要があります。

次のエラーは先ほどのエラーダイアログと同様の白いダイアログですが、こちらのメッセージはカスタマイズでカスタマイズを実行した結果、kintone からエラーが返ってきた場合のダイアログです。



見分け方は [kintone からの応答] というメッセージが記載されているかどうかです。[kintone からの応答] とあれば、kintone からエラーが返ってきた場合のダイアログであることがわかります。この場合は、kintone 側からエラーが返ってきているため、kintone のプロセス管理の設定とカスタマイズで指定したステータスの整合性が取れていない、カスタマイズを実行したユーザーが kintone のアプリやレコードに対して権限がないなど、kintone の設定とカスタマイズに齟齬がないか確認する必要があります。

このエラーの場合、[kintone からの応答] に、「入力内容が正しくありません。Code:CB_VA01 record. 氏名 .value: 必須です。」とありますので、レコードを追加・更新する際に kintone アプリで必須と指定されているフィールドに値をセットしていないためエラーが発生していることがわかります。

このように、エラーメッセージを読むとエラーの原因が判明する、または糸口が見つかることはよくあります。一度心を落ち着けて、エラーメッセージを読んでみてください。

また、[サポートサイト](https://support.gusuku.io/)では、カスタマイズでカスタマイズしているとよく出会うエラーメッセージとその原因を記事としてまとめています。

サポートサイト

(カスタマイズの設定画面右上「サポートサイト」からも開くことができます)

<https://support.gusuku.io/>

サポートサイト上部の検索窓で、エラーと検索してみてください。



検索すると、エラーに関する記事が表示されます。例えば、先ほどご紹介した必須エラーの例は下記の「**入力内容が正しくありません。records[0].OO.value: 必須です**」というエラーが出ました。詳しく記載していますので、ぜひ確認してみてください。

- **Customineでカスタマイズしたkintoneアプリを再利用するとエラーが出るのですが?**
<https://support.gusuku.io/ja-JP/support/solutions/articles/36000245438>
Customineでカスタマイズしたkintoneアプリを、kintoneの「ほかのアプリを再利用」を利用して新しいアプリを作成した場合、新しいアプリを表示した際に下記のようなエラーメッセージが表示...
- **「指定されたユーザーはすでに組織に属しています。」のようなエラーになり組織にメンバー追加できません。どうすれば追加できますか?**
<https://support.gusuku.io/ja-JP/support/solutions/articles/36000132168>
Customineを既にご利用のユーザーを別の組織に追加しようとした場合、下記のようなメッセージが表示されます。ユーザーは、同時に複数の組織に所属することはできません。別の組織に所属するためには...
- **「入力内容が正しくありません。records[0].OO.value: 必須です」というエラーが出ました。**
<https://support.gusuku.io/ja-JP/support/solutions/articles/36000220365>
こちらは、追加もしくは更新するレコードの中の入力必須のフィールドが空になる場合に発生するエラーです。解決手順 1. エラーが出るアクションの候補を探す まずはこのエラーが出そうなアクションを探します...

ある程度の長い文で検索して想定する記事がヒットしない場合は、検索キーワードの単語をスペースで区切って指定いただくのがおすすめです。

例えば今回の必須エラーであれば、「必須 エラー」のように区切って検索してみてください。自然な文章をキーワードとして検索するより目当ての記事が検索されやすいことが多いです。

3-5. 原因究明に役立つカスタマイズの便利な機能

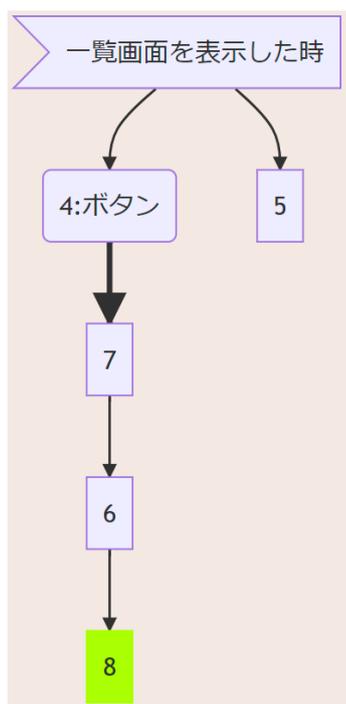
カスタマイズは、うまく動かないときの原因究明に役立つ機能を提供しています。

アクショングラフ

アクショングラフは、<条件：他のアクションの実行が完了した時>などで順番を指定したアクションが、どの順番で実行されるのかを図で表示してくれる機能です。

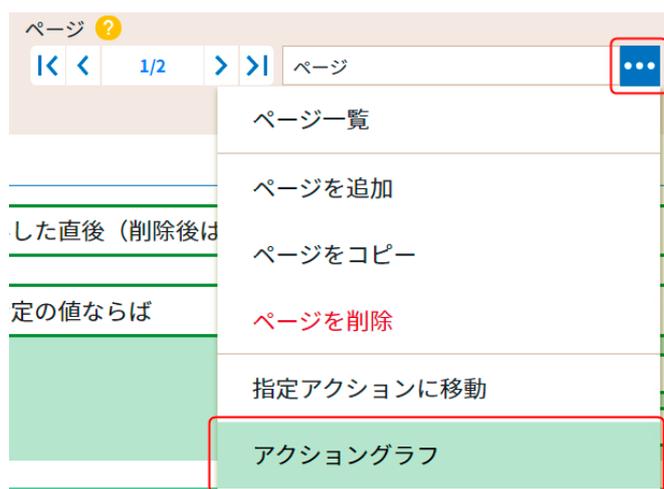
図でアクションの関連性を見て確認できるので、アクションが想定通りにつながっているかを確認したい場合に便利です。

カスタマイズを実行した時、順番に実行されるアクションが途中で動かない場合は、アクショングラフを確認してみてください。矢印が途切れていたり、順番が間違っているなど、一目でわかるためとても便利です。



アクショングラフ上に表示されている番号は、アクション番号です。なおアクショングラフ上のアクション番号をクリックすると、該当するアクションの設定にジャンプすることができます。

アクショングラフは、ページメニューの「アクショングラフ」を選択すると表示されます。



アクションの無効化

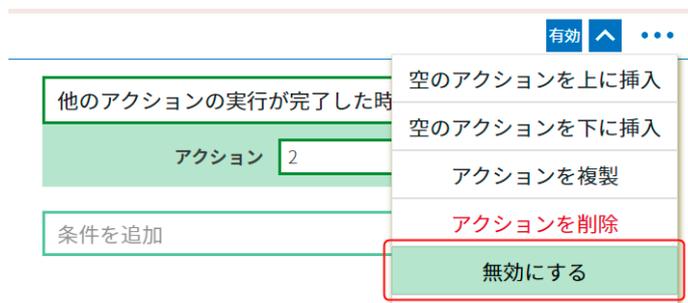
一時的にアクションが実行されないようにしたいときに使用します。

アクションを無効化した後で「kintone アプリへ登録」を行った際に、無効化したアクションはkintone アプリに登録されず、実行されなくなります。

アクションの左上のアクション番号または右上の有効ボタンをクリックすると、そのアクションを無効化できます。



右上のメニューから 無効にする を選択する方法もあります。



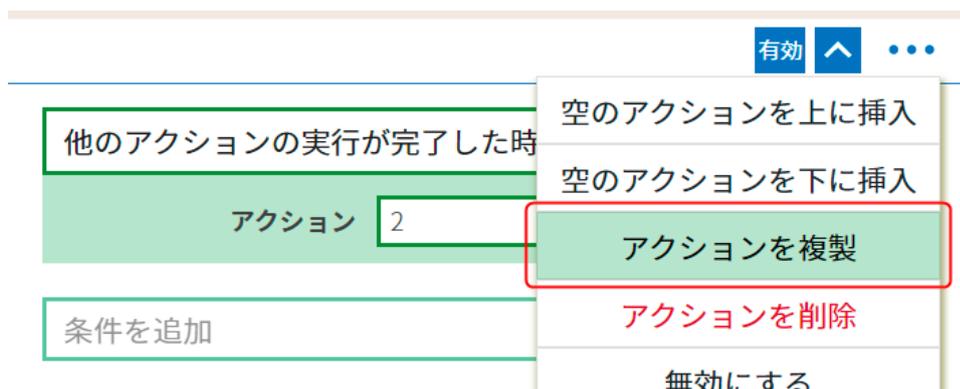
無効化したアクションは、左上のアクション番号がグレーになり、右上には無効と表示されます。



他のアクションの動きを確認するために無効化したり、アクションの設定を変更して動きを確認する際に、変更前の設定を残しておきたい場合にも使用できます。

その際は、アクションを複製して、複製元のアクションを無効化して残しておく、という方法がおすすめです。

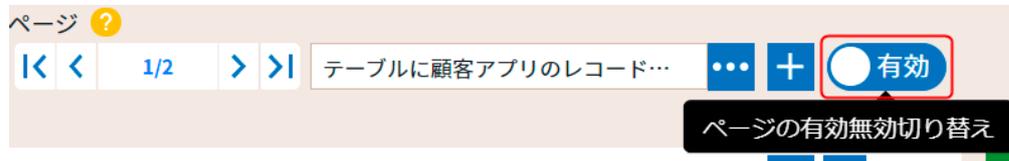
アクションの複製は下記のメニューから行ってください。



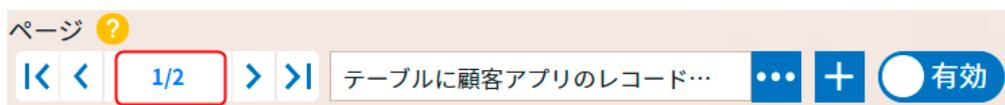
ページの無効化

個別のアクションではなく、ページをまるごと無効化・有効化することができます。
無効化したページは、「kintone アプリへ登録」する際に kintone アプリに登録されず、実行されません。

ページの無効化は、カスタマイズ画面右上の 有効 をクリックすると無効に切り替えられます。



または、ページの選択・並べ替え をクリックすると表示される ページ選択 画面でも無効化できます。



このページ選択 画面では、複数ページをまとめて設定できます。ページが一覧で表示されますので、どのページが有効・無効になっているか確認する場合にも便利です。



ページメニューから無効化することもできます。



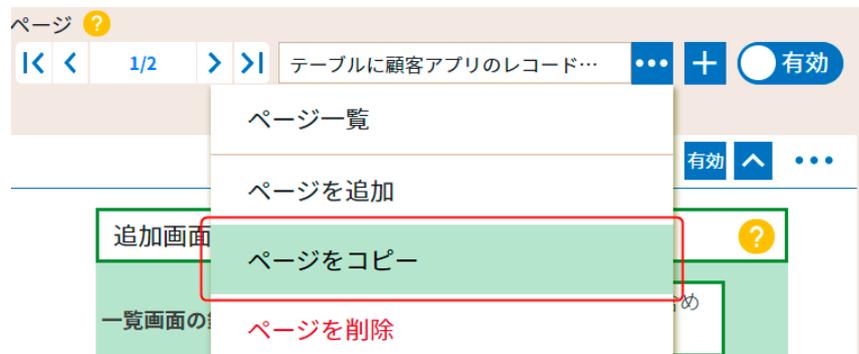
ページの無効化は、他のページの動作を確認したいときに、一旦ページ全体を無効化しておきたい場合などに使用します。この機能を効果的に使うためには、機能ごと、画面ごとにこまめにページを分けてカスタマイズを作成しておく必要があります。

ページの無効化は、次に記載するページのコピーと組み合わせて使用することも多い機能です。

ページのコピー

ページ内のカスタマイズに変更を加える場合は、ページをコピーして無効化し、変更前のカスタマイズの状態を保存しておくことをおすすめします。

変更前の状態を保存しておけば、カスタマイズの変更に失敗した場合などに、コピーしておいたページを有効化し、変更したページを無効化することでカスタマイズを変更前の状態に簡単に戻すことができます。



3-6. レコードが想定通り取得・絞り込みできているかポップアップ表示して確認する

[やること : [キーを指定してレコードを取得する](#)] や [やること : [クエリで条件を指定してレコードを取得する](#)] のように、条件を指定してレコードを取得するやんことを使用した場合や、取得したレコードを [やること : [取得したレコードを絞り込む](#)] で絞り込んだ場合、想定通りのレコードが取得・絞り込みできているか確認したい事がよくあります。

そういった場合は、本書の例でも取り上げているように取得・絞り込んだ後のレコードを [やること : [レコードの一覧をポップアップで表示する](#)] で確認してみてください。



このように、絞り込んだ結果を一覧で表示できるため、想定通りの絞り込みが行われているかを一目で確認することが可能です。

	都道府県名	市区町村名
<input type="radio"/>	島根県	川本町
<input type="radio"/>	和歌山県	串本町
<input type="radio"/>	奈良県	田原本町
<input type="radio"/>	大阪府	島本町
<input type="radio"/>	静岡県	川根本町

確認のための仮のアクションですので、確認が終わったらアクションを無効にしておけば、条件が変わった場合などの再確認の際に役立ちます。

また、「カスタマイズの歩き方:レコード取得編」では様々なレコード取得方法を紹介していますので、そちらもご覧いただければと思います。

3-7. テスト用アプリ作成

カスタマイズをガンガン試してと言われても、既にユーザーが使っている kintone アプリ (以下 本番用アプリ) にカスタマイズすると、誤ってレコードを更新してしまうリスクがあったり、フィールドの値やステータスなど、カスタマイズを試したい状態のレコードがなく実行確認が難しいことなどがよくあります。

そういった時のために、実際にユーザーが使うアプリとは別に、そのアプリをコピーした**テスト用アプリ**を作成することをおすすめします。



Excel / PDF 出力編